



安来市立第一中学校
〒692-0014 安来市飯島町792番地
Tel：0854-22-2250 Fax：0854-22-2298
令和7年度（5月12日発行：第2号） 文責 三保 貴資
<http://www.city.yasugi.shimane.jp/gakkou/daiichi-jh/>
または右のQRコードから E-mail：daiichi.jsc@city.yasugi.shimane.jp



県大会に向けて 安来ブロック大会のご案内

生徒たちは安来ブロック大会に向けて、一生懸命練習をしています。以前は市総体と呼ばれていたこの大会は県中体連が主管となり、各地で広域のブロック大会となりました。安来市は安来ブロック大会として、以前の市総体と変わらない規模でしたが、来年度からは松江市と合同開催で松江ブロック大会となります。安来市の中学生が競い合う大会は今回が最後になりますが、ぜひ県大会への出場権をめざして頑張ってもらいと思います。

- ・軟式野球 安来運動公園野球場 6/3.4
- ・ソフトテニス 安来運動公園庭球場 6/3.4
- ・バレーボール 広瀬中央公園体育館 6/3.4
- ・剣道 安来市民体育館格技場 6/4
- ・卓球 安来市民体育館 6/4
- ・陸上競技 松江運動公園陸上競技場 6/10
- ・体操競技 松江市総合体育館 6/10

事故のない日常にしよう 交通安全教室を実施しました

4月16日に交通安全教室を実施しました。新入生が対象です。安来警察署、交通安全協会から3人の方が指導に来られました。最初に警察署の方から、スライドや動画を見ながら体育館で指導していただきました。そして後半は校庭に出て、登校や休日の運転を想定した状況で、生徒たちは実際に自転車に乗ってみました。的確にポイントを指摘していただき、今後生徒たちは意識をして運転できると思いました。しかし、油断したとき、事故につながる可能性があります。指導していただいたことを意識しながら運転してほしいと思います。事故なく安全な日常を過ごしてほしいと心から願っています。

また、保護者、地域の皆さま、お気づきのことがあれば学校までご連絡いただくとともに、直接声がけ等の指導をよろしく願いいたします。



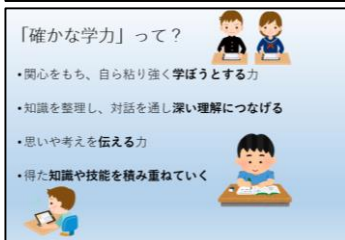
校長からのメッセージ 全校朝礼で話しました



昨年度同様、今年度も全校生徒に全校朝礼において、リモートでメッセージを伝えました。前回、校報にて、学校のグランドデザインを提示し、学校経営方針についてお伝えしました。その方針に基づいて、学校、家庭、地域が一体となって一中の学校教育を推進していきます。大事なことは、生徒自身が我が事として、次の時代をたくましく生き抜くための力を蓄えていかなければならないということです。生徒自身の主体性・積極性が必要となってきます。

「生きる力」を構成する力としては「確かな学力」「健康・体力」「豊かな人間性」とされています。この3つの力をバランス良く育てていくために各学校で工夫された教育課程が組まれています。教科指導だけでなく、行事や生徒会活動、特別な教科である道徳なども含めた教育活動で、生徒たちの成長を促しています。

そして「確かな学力」を構成するのは「思考力・表現力・判断力」「知識・技能」「学びに向かう人間性」とされています。生徒たちには、もう少し分かりやすく別の言葉で説明しました。一中では、次世代に必要な「確かな学力」が得られるよう、現在、授業改善の取組を進めています。同時に、生徒自身がいかに主体的・積極的に向き合うかが必要になってきています。受け身ではなく、積極的に授業に参加してほしいということについてメッセージを伝えました。また生活面については、前号でもお伝えした「気づき 考え 実行する」姿勢と、昨年度から伝えている「三方よし」の精神（詳しくは裏面）を大切にしてほしいと伝えました。この考えに沿って学校生活を送ることで、人をいたわり、周りも大切にできることにつながります。また、自分を見つめ、他者を思いやることは、学校生活において自分だけ良ければいい、といった独善的であったり、だらしない雰囲気を取り除いたりすることにつながります。生徒たちは校長からのメッセージを、やや窮屈に感じたかもしれませんが、学校でのルールや規範意識は、周りの人のためでもあります。結局は自分のためであると伝わり、誰もが居心地の良い学校生活になるよう意識した生活につながることを期待しています。

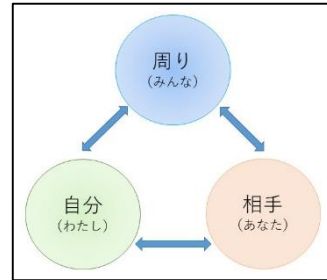


上：リモートによる全校朝礼の様子
下：説明のスライドの一部

「三方よし」の精神（自分よし 相手よし 周りよし）について

表面でもお伝えしたように「気づき 考え 行動する」ことについて、入学式に続き全校朝礼でもメッセージとして伝えました。そして、もう一つのメッセージとして「三方よし」の精神についても伝えました。このキーワードも昨年度から生徒たちに伝えていますが、もう少し詳しく説明します。保護者、地域の皆さまにもぜひ知っていただきたい考え方です。

この言葉は、江戸時代の近江商人の商売の思想から生まれたものです。もとの意味は「売り手よし、買い手よし、世間よし」です。売る人はもちろん、買い手が満足してくれて、しかも世の中のためになることが大切だという考え方です。近江商人がルーツである伊藤忠商事をはじめ、多くの企業の経営理念の根幹となっています。この考え方を人の生き方として、世に広めたのが、法学博士の廣池千九郎（1866～1938）です。人が幸せになるためには、自分自身の周りの人や、人を取り巻く社会もまたよりよいものになっていく必要があるという人生の指針を説きました。廣池博士の言葉は「自分よし、相手よし、第三者よし」ですが、中学生に理解しやすい方が良く考え、私は生徒たちに「周りよし」として伝えています。そして生徒たちにとって「周り」とは、クラスや学校のみんなであり、私達を支えてくれる家庭（もちろん先祖も含む）や地域であり、誰もが学校に通えるように制度を整えてくれている自治体や国でもあります。おそらくまだまだ他にも解釈できることもあると思います。



生徒たちにとって学校は、いわば子どもたちの社会と言ってよいと思います。言い換えれば、学校は子どもたちが大人になるまでに、社会を学ぶ場であると言えます。そのような場でぜひ生徒たちには、自分のことだけではなく、自分の周りにも目を向けてほしいと思っています。自分の知らないところで、たくさんの人が自分と関わっています。家族、友人、学校の教職員、地域の方々、他にも会ったことはなくても支えてくれている方はたくさんいます。

一中の生徒たちの様子は校報やホームページでもしばしばお伝えしておりますが、校内での授業態度や部活動の様子、地域貢献など中学生として適切な行動ができる生徒たちだと感じています。

しかし、思春期である中学生にとっては自分本位になってしまう時もあります。時に気持ちがささくれ立ってしまい、自暴自棄になったり、家族や友達を傷つけてしまったりすることがあります。そして結果的にクラスや学校の雰囲気が悪くなることもあります。一中ではこれまでと同様に、学校生活において生徒全員が心地よく過ごすためにはどうしたらよいかを考え、クラスや学校の友達に対して、優しさやいたわりの気持ちを持って接することが大切であることを、学校教育の基盤である「人権教育」の取組を通して伝え続けています。具体的には、生徒たちには、「陰口、悪口はその人の人権を傷つけている」、そしてその行いは「周りにいる人に対しても不快な思いをさせている」、そして、学校生活では「誰もが居心地のよい学級・学校をめざさなければならない」ことをこれまでも伝えてきました。客観的に自分の言動を見つめ行動し、周りにもよい影響を与えることができる人になってほしいと思っています。

また、さらに「三方よし」の精神を学校の外まで広げると、一中の教育活動は、保護者さんや地域の方々からの多大な支援で支えられています。「家族や地域の方々に感謝の気持ちを持つことの大切さ」も、ことあるごとに担任や部活動顧問からも話をしてもらっています。一中生として充実した活動ができる幸せを感じ、恩恵をいただいていることに感謝しながら、自分たちの日々の生活を充実したものにしていくことは、自分も周りも温かい気持ちになります。「三方よし」で皆が幸せになります。

生徒たちが将来の日本や世界の明るい未来を創る担い手となれるよう、生徒たち自身がしっかりとした人権感覚と豊かな人間性を磨き、周りの人を大切にする経験が積めるよう、私たち指導する教職員も努力してまいります。